

天書雲篆 — 道教の符圖文獻とその分析

李遠國

(四川社會科學院)

符圖とは道教の符籙と靈圖を指す。しばしば呪術と併用され、道教の「道を廣め、世を救う」主要な手段となる。道教の加持祈禱の儀式において、あるいは修練養生の際において、隨時隨處にみな符圖の使用が認められる。現在、『正統道藏』、『萬曆續道藏』、『道藏輯要』、『藏外道書』等の叢書には計 2783 種の道教文獻が収録されるが、そのうち符圖にかかわる著作は約 700 餘種あり、卷數は一千卷にも達する。符籙や靈圖なくして道は成らず、符圖は道教の最も明確な一種の文化標識といえるだろう。

漢から唐の時期にかけての天師道・上清派・靈寶派・三皇派から宋元時代の神霄派・清微派・北帝派・淨明派・閻山派に至るまで、いずれもみな符圖の效用を非常に重視した。またそれぞれに傳承があり、きわめて豊富な文獻資料を遺した。

符圖の種類について言えば、およそ三種類に分けることができる。すなわち、星座・流れゆく薄雲・雷鳴や稻妻・風雨のような符圖は、天文・氣象・生態等と関係しており、これらを「天象符」と呼ぶ。環境や建築・家屋の領域に廣汎に活用される符圖は「地理符」である。さまざまな種類の内鍊符・修真符・治病符・驅邪符は、いずれも人々の生命活動や身體の健康とかかわりのある符圖なので、「人體符」に含めることができる。

符圖の構成には、粗放から精緻へという發展過程がある。早期の符圖にはあきらかに規範と條理が缺乏しているうえ、さらに理論的には血が通わず無力なこともあって、「學」とはみなしがたい。しかし宋元以降は、抜本的な變化が生じ、中國哲學の元氣論および儒・佛・道三教の生命學を採用して理論の基礎となし、符圖の致命的な内傷を修繕した。それと同時に、符圖に内在する構成の規範化・序列化・條理化を非常に重視し、かくして昇華したそれをひとつの學説とした。それが「符圖學」にほかならない。

李遠國 LI Yuanguo り・えんこく

1950 年生

四川省社會科學院哲學研究所副所長、研究員、教授
主要著作 《道教氣功養生學》 《中國道教氣功養生大全》 《神霄雷法：道教神霄派沿革與思想》 ほか多数